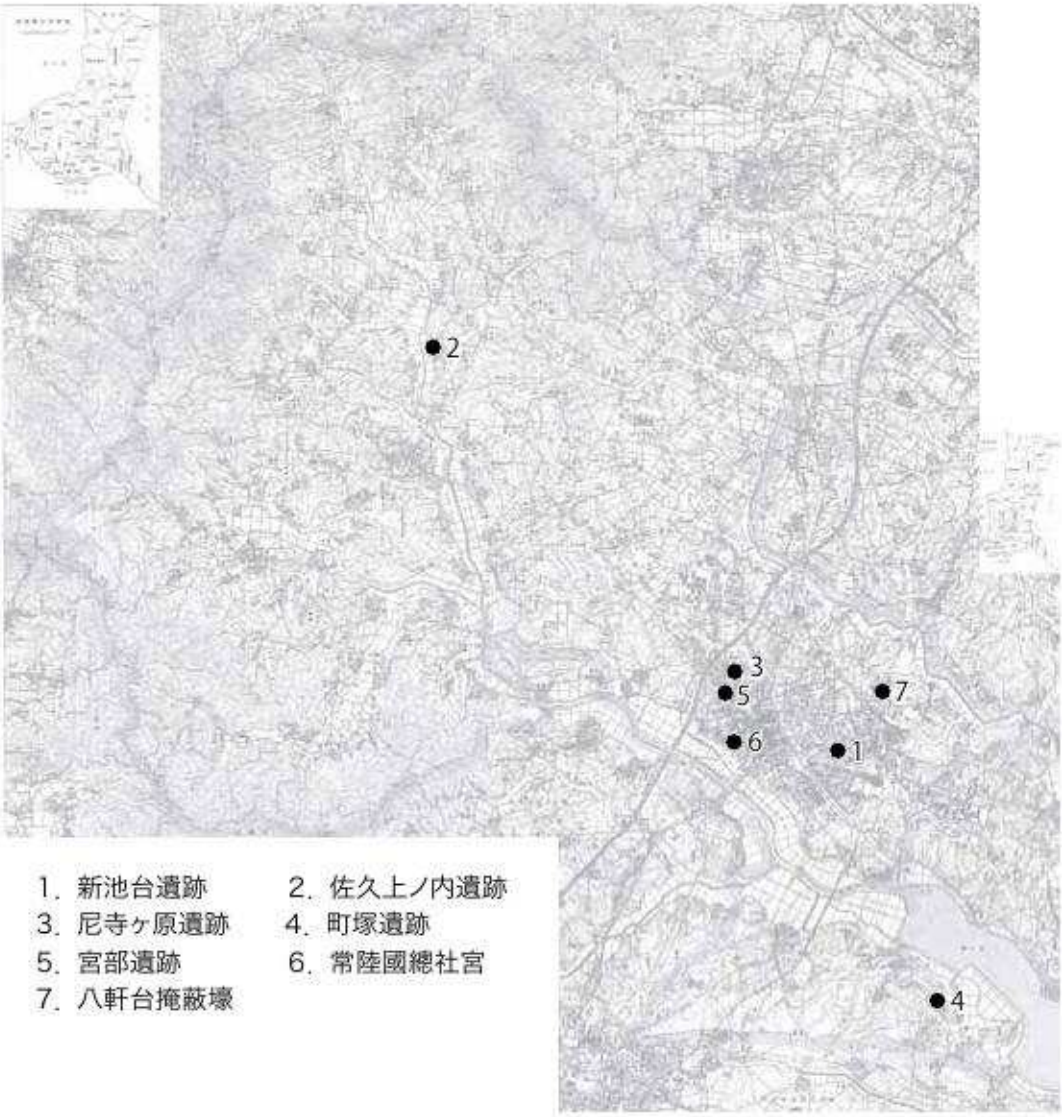
石岡を掘る

石岡市発掘調査速報展

今、石岡の歴史に
新たなページが加わる。

発掘現場から
文化力
POWER OF CULTURE



1．新池台遺跡　2．佐久上ノ内遺跡
3．尼寺ヶ原遺跡　4．町塚遺跡
5．宮部遺跡　6．常陸國總社宮
7．八軒台掩蔽壕

●例言●

本冊子は、2015（平成27）年7月18日～9月27日を会期として、常陸風土記の丘展示室において開催する「石岡を掘る―石岡市発掘調査速報展」に際して作成したものです。

展示および本冊子の執筆・編集は、石岡市教育委員会 文化振興課（担当 谷仲俊雄）が行いました。

●ご協力・ご助言をいただいた方々●（敬称略）

茨城県教育委員会　株式会社東京航業研究所　特定非営利活動法人古仏修復工房
常陸國總社宮　有限会社三井考測　有限会社勾玉工房Mogi

新池台遺跡 ―縄文時代前期の集落と墓―

昭和56年度に「フローラルシティ南台」建設に伴う発掘調査が行われており，平成22年度には特別養護老人ホーム建設に伴い発掘調査を行いました。

発見されたのは，縄文時代前期（約7,000年前）の竪穴住居跡と墓坑群など。竪穴住居跡は51軒も発見され，昭和56年度のものと合わせると70軒余り。茨城県屈指の縄文時代前期の大集落になります。

墓坑には装身具が副葬されていました。滑石製の玦状耳飾，滑石製の管玉，琥珀製の丸玉が円を描くように並び，縄文時代前期前半の土器と一緒に出土しました。複数種類の装身具が出土したという点はもちろん，土器が出土したことによって時期が判明したお墓として，貴重な事例です。

▲耳飾，管玉，丸玉が土器とともに出土

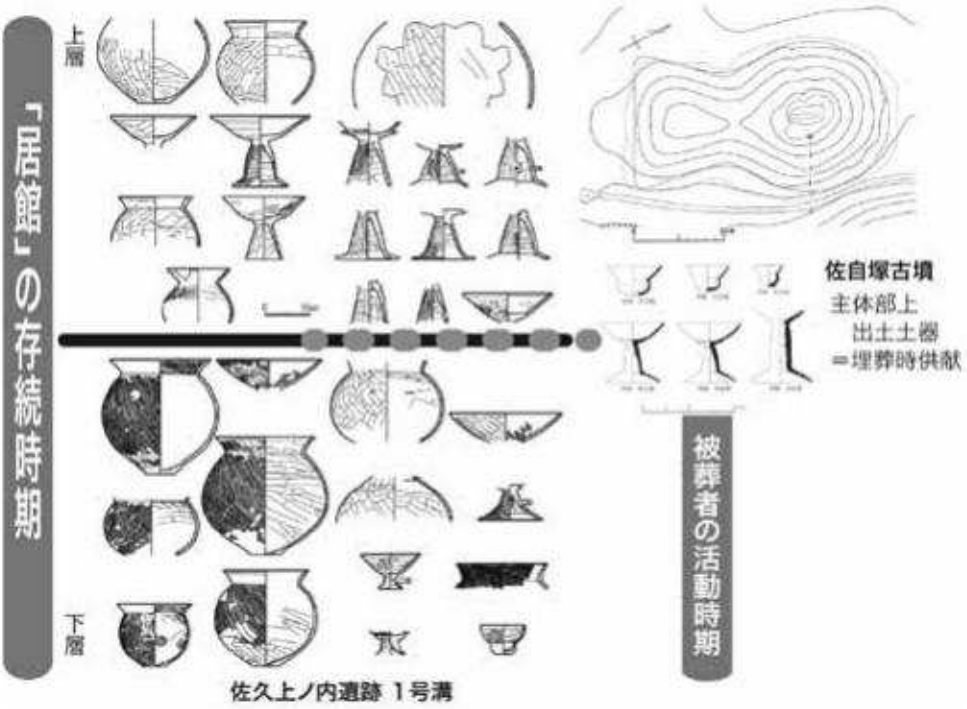
佐久上ノ内遺跡 ―古墳時代の豪族居館―

平成25年，農道建設に伴い発掘調査を行ったところ，幅3m前後で深さ1m程ある古墳時代前期の溝を発見しました。発掘できたのは東西方向と南北方向の一部でしたが，航空写真を見ると，東西方向の溝の延長線上に黒い部分が続き，そして南に向かって直角に曲がっています。この黒い部分は，考古学ではソイルマークと呼ばれるもので，地下に遺跡があるために土壌の乾燥状態が異なり，それが反映されたものと考えられます。

このソイルマークを参考にすると，東西70m，南北50m以上の範囲を溝が堀のように方形に囲んでいたことになります。このような溝－堀の区画は古墳時代の一般集落では珍しいもので，古墳に埋葬された有力者が住んでいた「豪族居館」の可能性が高く，石岡市では初めての発見になります。

その有力者が埋葬された古墳は，出土した土器の年代から，遺跡の南700m程のところにある市史跡・佐自塚古墳である可能性が高いと考えられます。考古学的な所見から，古墳と居館とのセット関係がわかる極めて貴重な事例と言えます。

▲遺跡の航空写真（写真上が北）
溝の延長線上に黒い部分が続いています。



尼寺ヶ原（にじがはら）遺跡

―寺の東隣に存在した
小型な掘立柱建物の性格は？―

石岡市若松の常陸国分尼寺跡の周辺に存在する遺跡です。昭和62年の発掘調査では「尼寺」と墨書された土器が出土しており，国分尼寺との関係が推測されていました。

平成25年12月，個人住宅建設に伴い発掘調査を行いました。調査地は史跡公園として保存している国分尼寺の中心地のすぐ東側であり，多くの発見が予想されました。

住宅の建設される70㎡あまりの表土を掘削したところ，発見できたのは径50cmから100cm程度の穴10個あまり。しかし，よく見るとうち8個は東西南北に整然と並んでいました。掘ってみると柱の腐った痕跡があることから，これらには柱が建っていた，つまり，掘立柱建物跡だと判断することができました。柱と柱の間の数は東西南北ともに2間で，面積は23㎡，7坪と小型なものでした。出土した土器から国分尼寺と同時期であり，関係する建物跡と考えられますが，残念ながら具体的な用途はまだわかっていません。寺のすぐ東側に存在した小型な建物，みなさんはどのように考えますか？

▲調査区の全景
（奥の芝生が常陸国分尼寺跡）

▲遺構の確認作業風景

掘立柱建物の柱跡▶
（黒い部分が柱の腐った痕跡）

町塚遺跡 ―古代の掘立柱建物と硯―

平成24年11月，個人住宅建設に伴い発掘調査を行いました。

調査したのは住宅部分の80㎡あまりでしたが，奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒と掘立柱建物1棟が発見されました。

掘立柱建物は，柱の間が3間×2間で，建物の外側だけに柱がある側柱建物と呼ばれるものでした。このような構造の建物は，倉庫，なかでも頻繁に収納物の出入りのあるものの一時保管場所と考えられています。今回の調査地は，そのような建物がある中心地と考えることができます。

出土した資料の中には，土器片を利用した硯がありました。

▲調査区の全景（有限会社三井考測 提供）

硯と筆を持ち，倉庫の前で品物の出入りを管理する指導者的な人物。

そんな人物がいる風景が浮かんできます。

町塚遺跡

―個人住宅建設に伴う発掘調査―

2012.10.31～11.13

① 表土掘削風景
② 遺構検出状況(東から)
③ 調査風景(南から)
④ 竪穴住居跡SI02(北から)
⑤ 掘立柱建物跡SB01(東から)
⑥ 竪穴住居跡SI02-04(北から)
⑦ 溝跡SD01(北から)
⑧ 調査風景(北から)
⑨ 土坑SK02(東から)
⑩ 掘立柱建物跡SB01-P4(南から)

⑪ 全景(北西から)
⑫ 全景(北から)
⑬ 掘立柱建物跡SB01(西から)
⑭ 空撮実験風景
⑮ 全景(北西から)
⑯ 全景(東から)
⑰ 掘立柱建物跡SB01(空撮)
⑱ 埋め戻し風景
⑲ 埋め戻し状況

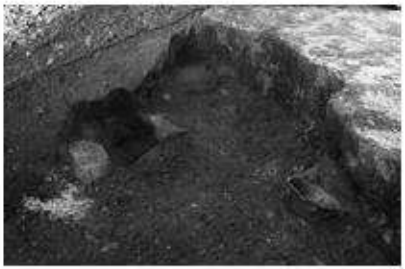
宮部遺跡 ―仏教信仰の浸透を示す小破片―

平成25年12月，セレモニーホール建設に伴い発掘調査を行いました。奈良時代の終わり頃から平安時代にかけての集落跡を発掘し，土師器や須恵器といった日用食器や，釉薬をかけた灰釉陶器や緑釉陶器，焼き物で作った塔のミニチュア「瓦塔」が出土しました。瓦塔は，石岡市では国分尼寺に次いで2例目のものです。

宮部遺跡は，国分寺，国分尼寺，そして国府のいずれからも700～800m―徒歩10分ほどの近距離にあり，それらと密接な関係があった集落と考えることができます。とすれば，仏教と接する機会も十分にあったことでしょう。

これまで宮部遺跡では複数回の調査を行っていますが，発掘したのは平安時代の竪穴住居跡中心。本格的な寺院建築が存在したとは考えにくく，瓦塔を安置した簡易な仏堂があっただけと考えられます。しかし，塔は仏の遺骨（仏舎利）を納めるものであり，仏に対する供養でした。今回発見した小さな破片ですが，宮部遺跡の集落にも仏教信仰が信仰が浸透していたことを物語っています。

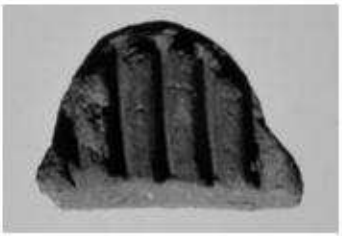
竪穴建物SI04完掘状況（南東から）



左：竪穴建物SI05完掘状況
（南東から）

上：遺物出土状況

竪穴建物SI05　出土遺物
9世紀前半



瓦塔
長さ1.7cm，幅3.2cmの小さな破片ですが，屋根の垂木が表現されています。石岡市内では，国分尼寺について，2例目の出土です。

常陸國總社宮 随神像

常陸國總社宮の神域の守り神である随神像。長年の風雨等により劣化してしまいましたが，平成22年修復が行われました。

製作されたのは延宝八年（1680年）で，製作者は京都五條通大佛師「寂幻」。寂幻は，国分寺市・国分寺の十二神将（1689年）や，つくばみらい市・板橋不動院の仁王像（1695年）等も手がけています。

像の胎内に残された墨書から，正徳五年（1715年），明和四年（1767年）と比較的短い間隔で修理されていたことがわかっています。その後修理を受けた記録は像内には残っていないことから，今回の修理はおよそ250年ぶりということになります。

このように製作年代や修理の年代，関係者の名前などがわかっているものは珍しく，歴史資料としても貴重なものです。

随神像は，複数の材をブロック状に組み合わせて，彫りだす「寄木造り」という技法で製作されています。また，頭部と体を別に作り，あとから首を差し込むという江戸時代に良く見られる構造をしています。

右大臣は壮年期，左大臣は老年期の姿が多いのですが，常陸國總社宮の随神像は若々しいのが特徴で，仁王像がそのまま武官の服装をしているような雰囲気です。

右大臣

修復前

総高140.6cm。半壊状態から修復されました。

総高138.5cm。ほぼ全壊状態から修復されました。

左大臣

修復前

1

2

3

白鷹の羽を使用して復元した矢

4

今回の修理記録の木札

1 左大臣 頭部前面材　2 左大臣 頭部背面材　3 左大臣 膝前材　4 左大臣の胎内に納められていた木札

延宝八年(1680年)に「京五條通大佛師 寂幻」によって製作されたこと(1・4)，正徳五年(1715年)(2・4)，明和四年(1767年)(3・4)に修理されていることがわかりました。今回の修理記録を書いた木札(右)も作成し，胎内に納めました。

八軒台掩蔽壕（はちけんだいえんぺいごう）

―太平洋戦争末期に急造された掩体壕―

太平洋戦争中，石岡市には海軍航空隊の基地（飛行場）が開設されていました。滑走路の周囲には飛行機を隠すための掩体壕（えんたいごう）が30基以上建設されていましたが，現在では3基が残るだけです。

平成26年6月，そのうちの1基，東大橋のJAホールの北側に残る掩体壕（八軒台掩蔽壕）の測量調査と発掘調査を行いました。

掩体壕は，コ字形をした飛行機を1基格納するタイプのもの。しかし，平面形は左右非対称で，平行四辺形状に歪んでいました。また，周囲の「周掘部」と呼ばれる部分は，土を取るためだけに掘ったというような乱雑な作りでした。

▲八軒台掩蔽壕の測量図

戦争末期ゆえに急造せざるを得なかったという状況や勤労奉仕の住民主体だったゆえに測量技術が不足していたということを物語っていると考えられます。

今回の展示で紹介できなかった遺跡を，調査状況の写真を中心に紹介します。

▲柿岡池下遺跡（第1地点-4）
調査年月　平成23年6月
調査原因　個人住宅建設
主な遺構　竪穴住居跡1軒（古墳時代）
　　土坑（中世）

▼杉ノ井遺跡（第8地点）
調査年月　平成26年3月
調査原因　個人住宅建設
主な遺構　溝1条（奈良・平安時代）

▲宮部遺跡（第7地点）
調査年月　平成24年11月
調査原因　個人住宅建設
主な遺構　竪穴住居跡5軒（奈良・平安時代）
　　土坑（奈良・平安時代）

石岡を掘る　―石岡市発掘調査速報展―

平成27年7月18日発行

編集　石岡市教育委員会　文化振興課
発行　石岡市教育委員会
〒315-0195　石岡市柿岡5680-1
常陸風土記の丘
〒315-0007　石岡市染谷1646